

第2次さぬき市男女共同参画プランの見直しに関する 中学生ワークショップ報告書

テーマ「家庭生活の役割分担について考えよう」

日 時	平成 30 年 8 月 6 日 (月) 13:20～16:00
場 所	さぬき市役所 3 階 3 0 2 会議室
参加人数	生徒 16 名
スタッフ	・さぬき市男女共同参画推進協議会委員 ・市事務局
目的	性別にかかわらずなく、「自分らしく、ともにいきいきと生きることができるまち」を実現するために、中学生を対象に、男女共同参画に関する意見交換を通して、自分たちの将来について考えてもらう。
タイム スケジュール	13:20～ 開会（事務局からの説明） 13:25～ 概要説明（さぬき市男女共同参画推進協議会 会長 村上弥生） 「将来の男女の働き方について～さぬき市の中学生アンケートを振り返って～」 13:50～ 自分の考えを付箋に記入する 14:05～ グループ内で意見を出し合い付箋を貼る 14:35～ グループ内で意見をまとめ画用紙に記入する 14:50～ グループごとに発表（3班⇒4班⇒1班⇒2班） 15:10～ 他グループの意見を聞いた上で、グループの最終的な意見を画用紙に記入 15:25～ グループごとに最終発表（1班⇒2班⇒3班⇒4班） 15:40～ ワークショップ総括 15:55～ 閉会
グルーピング	1 テーブル 4 名の班に分かれ、4 班のグループに分かれて作業を行いました。

ワークショップの進行に当たっては、参加生徒に「男女共同参画」の趣旨を理解してもらうため、香川大学男女共同参画推進室の村上弥生先生により、昨年度実施の中学生アンケートの結果から、家庭生活における男女の役割分担の現状を解説していただきました。

続いて、ワークショップのテーマである「家庭生活の役割分担について考えよう」に基づき、各自の考えを付箋に書き込み、グループ内で意見交換をした後、グループごとに発表をしました。その後、他のグループの発表を聞いた上で、再度グループ内で意見交換をし、まとめた意見を発表しました。

【ワークショップとは】

※参加者が協力しながら知恵を出し合い、手を動かし、その成果をまとめていく作業のことです。一般的な会議と異なり、参加者自らが自由に意見を出し、協力しながらまとめあげることを目標としています。参加者一人ひとりが目標を共有し、同じ方向に向かって作業を進めていきます。

概要説明（将来の男女の働き方について～さぬき市の中学生アンケートを振り返って～）

村上先生の解説を踏まえ、男女の家庭生活での役割分担や中学生が家事を手伝う頻度など、身近なところから男女共同参画について皆さんに考えてもらいました。「夫婦が協力して」という理想から現実がかけ離れていることを知り、若い時から男女の役割を考えることが、大人になって理想に近づくことになることを教わりました。

【アンケート結果の概要】

- 市民アンケート結果では、理想とする家庭生活での役割分担をみると、全ての項目において「夫婦が協力して」が多くを占めている。しかし、現実では「日常の家事（料理・掃除など）」をはじめ「家族の介護や看護」「子育て（育児・しつけなど）」は「主に妻」が担っている割合が多数を占めている。
- 中学生アンケート結果でも同様に、家庭生活での役割分担では、掃除や食事に関して「母親」の割合が多くを占めている。



テーマ「家庭生活の役割分担について考えよう」

今回のワークショップでは、各自の考えを付箋に記入し、グルーピングする方法を用いました。各自の頭の中にあるぼんやりとした考えを、直接、紙の上に表現することによって、その考えをはっきりさせる効果があります。

家庭生活での男女の役割分担について、参加生徒がどのように認識しているか意見を自由に出し合い、多様な意見をグルーピングしながら議論を深めました。

①グループワーク（グループ内での意見交換）

家庭生活での男女の役割分担について、ふだんの生活などで感じていることを付箋に記入し、模造紙に貼り付ける作業を行いました。そして、各自の考えについて意見交換後、グループごとに意見をまとめ発表しました。

【1班】

グループの意見

【女性】

- ◆役割分担では、全体的に女性の割合が高くなっている。
- ◆家事について、女性に傾いている。

【男性】

- ◆ごみ出しは男性の割合が高い。
- ◆父親は少し、母親に任せていることが多い。

【中学生】

- ◆家事などを手伝うのは、いつもではなく、時々がとても多い。
- ◆女子のほうが家の手伝いをよくしている。
- ◆家事を手伝う頻度が男女共に最も多いのが掃除。女子のほうが多いが、男子も他の家事と比べるとやや多い。
- ◆家事は手伝うものだ。

【その他】

- ◆両親が協力してすることが少なく、子どもも家族に協力することがごく少ない。
- ◆女子は洗濯、食事。男子はごみ出し、世話。
- ◆育ててくれた親の世話が必要ないのはおかしいのでは？

【2班】

グループの意見

【家庭生活の役割分担】

- ◆良い点としては、子どもやお年寄りの世話は、両親でしている。
- ◆ごみ出しは、力仕事なので父親がしている家もあるが、母親に任せている家もある。
- ◆改善点としては、ほとんどの役割を母親がしている。父親がもっと手伝うべき。
- ◆役割分担では、特に家の掃除と食事関係で、女性が70%以上になっている。
- ◆母親の仕事が多いので、食事の後片付け、食器洗いなど、手伝えそうなところは手伝うと、母親の負担は少しでも少なくなると思う。

【家事を手伝う頻度】

- ◆良い点として、食事の支度、後片付け、掃除、ペットや植物の世話については、ほとんど男女共にできている。
- ◆改善点として、ごみ出しは、女子より男子のほうがしている割合が多い。
食事の支度や後片付けは、男子より女子のほうがしている割合が多い。男子は料理にもっと関心を持つべき。

【3班】

グループの意見

【現状】

- ◆家庭生活の役割分担では、大半のことを母親がやっている。
- ◆家庭生活上で、子どもの世話やお年寄りの世話を両親が行っているところが多いので、とても良いことだと思う。
- ◆掃除では、全体的に、女子より男子のほうが「よくしている」の割合が高いのでいいと思う。
- ◆家の手伝いでは、男子のほうが「よくしている」の割合が高い。一方、「する必要がない」の割合が最も多いため、意識を高めていく必要がある。
- ◆食事の支度では、女の人が食事の準備をするという考えが固まっている感じがする。男子のほうが「する必要がない」という考えが多いので、改善すべき！
- ◆きょうだいの世話をよくしている人は女子のほうが多いため、小さい子の相手をするのは女子のほうが得意なのかと思う。

◆中学生ではペットや植物の世話を「よくしている」と答えた人が一番多かったため、他の家事と比べてやりやすいのだと思う。

◆父親が行うことは、ごみ出しが一番多いので、それぐらいしかできないほど忙しいのかと思う。

【改善方法】

◆母親がすればよいという考え方を直すために、週末からでも家族で協力する習慣をつける。

◆役割を増やす。(父親や自分たちもできることをする。)

◆自分にできることは、誰かに任せずに自分でやる！母親の負担を減らすことができ、家事への責任感を持つことができる。

◆洗濯など少し難しいことは、していない人が多いが、掃除など簡単なことはしている人が多いので、簡単なことをもっと行えばいい。

【4班】

グループの意見

【仕事量の差】

◆母親の仕事が多い。(負担が大きい。)

◆特に大変な食事の支度や子どもの世話などを、母親に任せっきりになっている。

◆家の掃除は、ほとんど母親がしている。

◆学校行事への参加は母親が多い。

◆ごみ出しのような力仕事は、父親の割合が高い。

◆両親で協力している仕事が少ない。

◆男の人がやっている割合が低すぎる。

◆家事を手伝う頻度も女子のほうが割合が高い。

◆家事を手伝う頻度が高い人が意外と多い。

◆家の手伝いをする必要がないと思っている人が多い。

◆自分がしている仕事が少ない。

◆男子と女子で手伝う仕事が偏っている。

◆小さい頃から家事をする(手伝う)習慣を身に付けて、大人になっても続ける。土日ぐらいは家のことをする。



②グループワーク（他グループの意見を聞いた上でのまとめ）

他のグループの発表を聞いた上で、再度グループ内で意見交換をし、グループごとに最終的な意見をまとめ発表しました。

【1班】

グループ発表

- ◆性別にかかわらず、自分の得意なことを家族で分担し、協力して生活することが大切。
- ◆親が家事をしてくれることを当たり前と思わず、子どもも家族の一員であることに責任を持つ。

【2班】

グループ発表

- ◆ごみ出しのような力仕事には向いているかどうかに関係するが、できるだけ仕事を分担すべき。
- ◆女性は家事、男性は仕事のような偏った考えは捨て、男女関係なく協力する。
- ◆幼い頃から、手伝いの習慣をつける。

【3班】

グループ発表

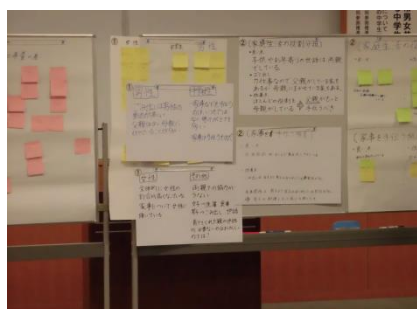
- ◆父親や自分たちもできることをする。例えば、家族で役割や当番を決めて、習慣にする。
- ◆家族全員が協力して家事を行う。誰か一人に任せっきりにしない！

【4班】

グループ発表

【仕事量の差を平等にするには⇒協力が必要】

- ◆家族全員で協力する。
- ◆小さい頃から母親の手伝いなどをする習慣をつける。
- ◆“女子がする”認識を捨てる。
- ◆自分にできる家事は手伝う。
- ◆家族で役割を分担する。
- ◆男女それぞれの特徴を生かす。男性は力仕事、女性は得意なことで役割分担をする。



参考資料／出席者アンケート集計結果

今回ワークショップに参加した生徒の皆さんに、参加した感想をアンケート用紙に記入してもらいました。

■ワークショップの感想

1 村上先生の講話で、気づいたことや学んだことはありますか？（質問 NO②）

男子生徒

- ◆イキイキとした生き方をしていこうと思った。
- ◆男女関係なく、自分ができることを見つけ、行動することが大事だと思った。
- ◆男女の差があると思うけど、やっぱり協力していかなければならないということが分かった。
- ◆家庭生活の役割は、ほとんど母親がしている。
- ◆今は中学生だけど、大人になってさぬき市を背負うようになったときに、男女の偏った考えは捨てて、さぬき市の「自分らしく、ともにいきいきと生きることができるまち」のテーマの模範となる市民になろうと思いました。
- ◆家庭の役割も、理想と現実とは全く違っていたので、もっと自分たちが考えていかなければいけないことを学んだ。
- ◆思っていた以上に男性が家事に参加していない。
- ◆自分たちが自分たちの住みやすい場を作る。
- ◆それぞれの個性を生かすことの大切さ。
- ◆協力することの大切さ。
- ◆都市の発展にも男女共同参画が関わってくることを。

女子生徒

- ◆男女が協力しているところは、発展していくという話に驚きました。
- ◆男女の差もあるし、そのことも踏まえて積極的に家事をする。
- ◆自分らしく、ともにいきいきと生きることの大切さを学んだ。
- ◆今、中学生の私たちはワークショップで考えたことをこれから実践していくことができる。そう言ってもらえて良かった。
- ◆思ったよりも母親の負担が大きいこと。
- ◆男女それぞれ良いところがあるんだ！と改めて気付かされました。自分から家族のために動きたいと思いました。また協力することの大切さもよく分かりました。
- ◆家庭での家事分担の理想と現実の違いのお話から、なぜそうなるかという原因を自身でしっかり考えることができたので良かった。
- ◆絶対に男女平等にしないでいけないということではなく、平等にする中で男女それぞれの特性を生かしていくことも一つの方法だということ学びました。
- ◆男女間に差があるのは仕方のないことだから、それを生かして家庭での役割分担をして、平等に生活ができるようにすることが大切だと思った。

2 ワークショップで、気づいたことや学んだことはありますか？（質問 NO③）

男子生徒

- ◆人の意見を聞いたことで、あの人の意見は良いなと共感できることができてとても良かった。
- ◆人それぞれの意見が聞けて面白かった。自分とは全く異なるものから、同じようなものがあった。
- ◆アンケートのグラフを見て、家庭生活の役割分担で、力仕事は男性、食事関係は女性と、男性と女性で仕事に分かれているので、男性でも料理を作れるようになると女性の負担も減ると思いました。
- ◆男女の得意、不得意などの差はあるけれど、それ以外は協力してこれから過ごしていきたいと思った。今までは、家の手伝いなどは全くできていないのですが、今日の話合いをして、少しずつでも手伝っていこうと思いました。
- ◆自分が考えていた問題や対策とは全く違う問題や考え方が知れて、深め合うことができた。他の人の考え方に気付けた。
- ◆男性と女性が同じ仕事をしているのに、男性の方が給料が多いなど、不平等な点が多い。
- ◆母親の負担が大きいこと。
- ◆もう少し自分たちも手伝いをしないといけないということ。
- ◆人によって考えることが違うこと。
- ◆同じ一つの目標でも多数の意見が出てくる。

女子生徒

- ◆自分の得意なことを生かして、男女だけでなく、家族で協力していくことが大切だと学びました。
- ◆他の人の意見は自分とは違う意見とかもあって、自分自身こんな生き方・生活の仕方もいいなと思った。
- ◆女性が家事をするという偏った考えが、私にもあるかも知れない。そんな考え方をしない、させないような世の中にしていくことが大切。
- ◆家庭の中で、自分もその中の一員なのだから、自分にできることは手伝えるような人になりたいと思った。いろんな人の意見を聞いて考えを広めることができた。
- ◆一人一人の意見が大きなたまらなつながつたりして、やっぱり小さなことでも発表するということの大切さがよく分かる機会になりました。
- ◆他校の人ともたくさん自分の意見を言い合うことができて、着眼点の違う意見を知ることができたのでとても新鮮だった。
- ◆他の人の意見もたくさん聞いて、違う考えや見方を発見することもできました。
- ◆他のグループの意見も聞いてみて、「自分にできることを見つける」ということはとても大事だと気付かされた。

3 男女共同参画について、自分だったら何ができると思いますか？（質問 NO④）

男子生徒

- ◆女性だけに家事などをやらせずに、自分から進んで行動し、女性を少しでも楽にさせたいと思った。
- ◆やっぱりお母さんを少しでも助けるために、より多くのお手伝いをする。
- ◆自分らしさを出せる環境づくり。
- ◆僕の家では父親が県外に住んでいて、母親が一人で働きながら育ててくれているので、ほとんどの役割を兄弟でしているのもので母親への負担は少ないかなと思いました。
- ◆これからは料理などの家事を身に付けて、大人になって協力できるようにする。
- ◆男だからこれをする、女だからこれをするという考え方を改め、自分の得意なことに積極的に取り組む。
- ◆発表から幼い時の生活が大事と聞いた通り、自分は今から大人になるまで親の仕事を手伝うなど、男女が自分らしくともにいきいきできる社会にするため自分にできることを頑張ります。
- ◆助け合い。
- ◆ボランティア。
- ◆家事の手伝い。
- ◆女子力を上げたい。

女子生徒

- ◆自分ができること、例えば洗濯や食器運びなどを進んですること。
- ◆自分にしかできないことをできるだけする。
- ◆不得意とかもきっとあるけれど、自主的に挑戦していく。
- ◆弟と一緒に家族の手伝いをして、負担を減らしていく。
- ◆男性だから、女性だからという性別のくくりではなく、「私は」という個人としてできることを積極的にすれば、できることは増えると思う。
- ◆まずは家の人と役割分担をして、自分ができることの幅を増やしていきたいです。私は料理や洗濯が得意なので、週末などの手伝える日は積極的に手伝っていきたいです。
- ◆自分の得意なことを生かしていけたらいいと思った。ワークショップを通して、考えたことや学んだことを生かすことができたらいいいと思った。
- ◆自分のことは自分でやり、兄弟の世話やちょっとした用事なども進んでやって、親の負担を少しでも減らせるようにしたいです。
- ◆家族の中で決められた仕事を果たして、家族で協力して生活していくこと。

4 今日の感想や心に残ったことを自由に書いてください。(質問 NO⑤)

男子生徒

- ◆他の中学生たちと話合いができてとても良かった。
- ◆みんなの明るさとかで、緊張の心が解けた。他校の人と話すことで、違う意見が多く共有できたので良かった。話し合って、違う意見を生み出すということはすごく重要なことだと気付いた。
- ◆手伝いをしない人たちもまだ少しいるので、小さい頃から手伝いをして将来に役立てるといいと思いました。
- ◆今日は自分にとって、とても良い経験になったと思う。今日考えて知ったことは忘れずに大人になっても生かしていきたい。
- ◆他校の人と一緒にワークショップをするのは少し不安だったけれど、自分から意見を言ったり、他の人の意見を聞いたりして仲良くもなれたし、お互いの考えを深めあえたので良かった。これからのために積極的に男女共同参画について考えて行動していきたいと思う。
- ◆今ここで学んだことを実践したい。
- ◆初めは全く知らない他校の子とうまくやっていけるかなと思ったが、ワークショップ等をしていく中で、お互いの意見が同じだった時、「同じ～」とか「やっぱり～」とか自然と会話が進み、最後には当たり前のように笑顔で話し合うことができたので自分にとって貴重な体験ができた。また男女共同参画についてたくさん学べた。今日学んだことは将来に生かしていきたい。ありがとうございました!!
- ◆こういう人との関わりでは緊張しても積極的に話すことで仲良くなれること。
- ◆母親の負担は大きいのもっと楽にしたい。
- ◆一人暮らしをしても問題がないようにしたいです。

女子生徒

- ◆想像していたよりも、アンケートの結果に偏りがあり、驚きました。自分の考えも深めることができ、他校の人達とも仲良くなることができ良かったです。
- ◆自分の思ったことをきちんと言ったり、積極的に発表できていたので良かった。
- ◆体験談とかも入っていて、より分かりやすかった。
- ◆今日はとても貴重な体験ができました。いまだに女性への差別がニュースで報道されるような時代ですが、考えるだけでなく、自ら行動して社会の偏見を変えていくことが大切だと思います。今日はありがとうございました。
- ◆自分が家庭の中で、どれだけ何もしていないということが身に染みて分かった。なので、今回学んだことなどを踏まえて、自分のできることから始めて行こうと思った。他校の人の意見などを聞いて、楽しく活動できて良かったです。
- ◆初めはとても緊張していてどんなことをするんだろうと思っていたけれど、だんだん盛り上がってきて話合いも活発にできました。他校の友達とも仲良くなれたし、とても良い機会になりました。自分は自分らしく、いきいきとこれからのを過ごしていきたいと思います。
- ◆村上先生の講話を聞いて疑問に思ったことなどを同じ班の人と話し合えたことや、工夫して自分たちの意見をまとめることができ良かったです。

- ◆今日、このグループワークをやって気付いたことやこれまでの家庭での自分の行いなどたくさんの方の反省点とともに、新しい発見ができたので本当に良かったです。これからは手伝えることを増やせるように頑張りたいです。
- ◆もともと手伝いは時々していたけど、このワークショップを通して、さらに家族の中でも自分の仕事はしないといけないと感じた。今日からもっと積極的に家の手伝いをして両親の負担を減らしたいと思った。